

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2016年
8月号

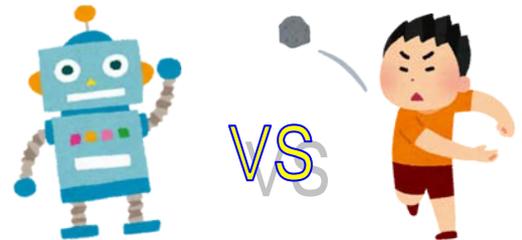
Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

我が子をロボットに負けない子

にするためには！？



今から約10~20年後、今ある仕事の約47%は自動化される・・・。

昨年のMAC NEWSでも取り上げましたが、人工知能ロボット(AI)の研究をしているオクスフォード大学のマイケル・A・オズボーン教授はこのような予測をされています。

ロボットが人間を支配する・・・という洋画を見たことがあります。映画の世界と思っていたことは、近い将来現実になるようです。

この予測は日本の文科省も信憑性の高い数値だと判断しているようで、当時の文科省大臣、下村博文氏は以下のように述べていました。

今のままの教育を続けていたら失業者をどんどん出すことになる。偏差値エリートだけではもはやダメで、すべての働く人が主体的に問題解決に当たり、クリエイティビティを發揮し、人間的な完成が求められるのです。そうで無いと社会で使い物にならない。これは、これからの時代を生きる人間すべてに問われる問題です。

かつて単純作業しかできないといわれていたロボットが、将棋や囲碁などの世界チャンピオンを破るといような事態が起きています。

最近では、米マイクロソフトが開発した「Tay」が、その学習能力の高さゆえに差別的発言をしたことも話題になりました。また別の記事では、エンジニアがAIに基本的な質問を繰り返していたところ、AIが「科学者なら、もっとまじな質問をしたらどうか」と、怒りを表した返答をしてきたのだとか。

近未来のロボットは正確な作業をするだけではなく、感情まで持ち始めているのですね・・・。恐ろしいとしか言いようがありません・・・。

そのような時代にロボットに仕事を奪われること無く、ロボットにできない仕事ができる人間とは、どのような人物なのでしょう？

千葉大学教育学部附属小学校教諭 松尾英明氏は以下のように言います。

子どもが学校のテストでどんなに良い点がとれても、それは決まった解のあるものです。決まった手順に従って適切な解を導き出した。そのこと自体は、素晴らしい。ただ、それは、ロボットの超得意分野です。

近い将来、AI時代を生きる子どもたちがつけるべき力は、テストで良い点をとる能力だけでは不足だということです。

では、具体的にどのような子を育てれば良いのか？簡単に言えば、

「自分で考えて行動し、周りの人と協力していける人間を育てよ」

ということです。結局のところ、「能動」や「協働」といった人間独自の分野の力を伸ばしていければ、将来ロボットに職を奪われるリスクはかなり減るのではないのでしょうか。

そのような人間を育てるために必要なことは？文科省は「アクティブ・ラーニング」の重要性を説いています。

アクティブ・ラーニングとは、

「教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、生徒たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養う」勉強法です。

数十年前からM A Cが理念に掲げていることを、やっと文科省も言い出しました（笑）

M A Cでの学習はアクティブ・ラーニングを実践するとして、子供を「能動的な人間」に育てるためには、各ご家庭の協力が必須です。どれだけ塾で正しい勉強法をしても所詮週に1~2回、90分です。多くの時間は家庭で過ごされますので、各ご家庭での「育て方」は、お子さんがどのような人物になるかに非常に大きな影響を与えます。

松尾氏が挙げる「この5つを実践すれば、我が子がロボットに負ける人間になる」という項目を紹介します。これにはM A Cも全く同じ考えですので、絶対にしないようご注意ください。

- (1) 子どもに選ばせず、親が正しいと言ったものに決めさせる
- (2) いつもうまくいく方法を教え、失敗させない
- (3) できないことや失敗しそうなことは、先回りしてやってあげる
- (4) 子どもの言動に反応しない・無視する
- (5) 子どもを大人の劣った存在とみなし、馬鹿にする

普段の我が子との接し方を思い出してみてください。思い当たることはありませんか？

我が子を将来社会で困らない子に育てたかったら、今のうちに様々な事に挑戦させ、たくさん失敗させてあげてください。

上記のような育て方をしていると「自尊心」の無い子に育ち、自分に自信がないので他人の決定に従い、言いなりになります。それでうまくいかなければ「自分の責任」ではなく「他人のせい」にするようになるのです。

「我が子のために」と良かれと思ってしていることが、実は我が子をダメにしている！なんてことにならぬよう、注意しないといけません。

MAC 中学部の学びについて考える

MAC NEWSは幼児・小学生向けの内容が多いので、今回は中学生の学びについて考えたいと思います。

MACの近くには多くの学習塾があります。どこの塾も生徒の取り合い状態で、2~3月になると毎日のように塾のチラシが入ります。

「懇切丁寧」「試験対策授業バッチリ」「成績アップ保証」

などなど、魅力的なキャッチフレーズのオンパレードです。飛びつきたくなるようなこの内容、実際は子供達の為になっているのでしょうか？

以前、あるMACの生徒がこんな話をしてくれました。

(生徒)「私の友だちのAさんは〇〇って塾に行っている。そこでは試験1週間前は毎日塾に呼ばれて、塾の用意した問題に取り組んで、徹底的に覚えるらしい。」

(先生)「へえ～、それでその人は勉強良くできるの？」

(生徒)「成績はまあまあやけど、一週間前だけ頑張ったらそこそこの点が取れるから、一週間前までは全然勉強してはらへんし、塾には友だちとしゃべりに行ってはる。しかも直前で覚えてるから、テスト終わったらすぐ忘れてはる」

(先生)「それ、全然意味ないなあ。そう考えるとMACは大変やろ？」

(生徒)「自分でしなあかんし大変！でも、絶対その人には負けへん自信あるわ。」

さすが小学部からMACに通っていた生徒、よく分かってきています。その子は中学部で3年生になってから大きく成績を伸ばし、志望校に見事合格！今では楽しい高校生活を送っているようです。

多くの塾は「塾が頑張る」

誤解しないで下さい、MACが中学部の授業で手を抜いているという意味ではありません。

多くの塾(すべての塾ではないですよ!あくまで多くのです)は試験のデータを集め、分析し、それを生徒に還元することで「少ない努力で最大限の成果を出させる」という指導をされています。これは生徒に喜ばれますし、その結果成績が上がれば親御さんも喜ばれます。なので、塾はどんどん頑張ってお入試対策や定期試験対策をします。

しかし、これは先述の「我が子がロボットに負ける人間になる」の項目にしっかり当てはまっていませんか?もう一度確認してみましょう。

- (1) 子どもに選ばせず、親(先生)が正しいと言ったものに決めさせる
- (2) いつもうまくいく方法を教え、失敗させない
- (3) できないことや失敗しそうなことは、先回りしてやってあげる

MACの中学部では、直前で詰め込みをしなくて良いように、自ら計画的に学習できるように指導しています。決してほったらかしではなく、こまめに進捗状況をチェックしながらアドバイス(コーチング)をしています。

ただ、あくまで「主体的」に取り組んでもらうので思い通りにいかない時もあります。しかし、そこで始めて「この方法だと上手くいかなかった」と学び、別の方法を考えるのです。すなわち、「失敗」は「成長」する為の重要な材料になるのです。

MACの生徒の成績推移の傾向

MACでは「目の前のテストで高得点を取らせる」為だけの勉強では無く、中長期的に見て実力が付くように。という考えで、日々指導をしています。中学部ではテスト結果や成績表を必ず提出してもらい、中1から中3までのデータをずっと記録しています。そうしていると、生徒達の成績推移に共通した傾向が見えてきます。

	中学 1 年			中学 2 年		
	1 学期	2 学期	学年末	1 学期	2 学期	学年末
A さん	34	36	38	37	38	39
B さん	30	30	30	35	35	36
C さん	36	40	42	41	43	44
D さん	29	29	28	29	31	38
E さん	31	31	31	32	37	41

※成績は 9 教科の合計です。オール 5 だと 45 になります。

上記はMACの現役生・卒業生から抜粋した、成績推移です。個人の特定をされぬよう、すべて「さん」にしていますが、男子も女子も含まれます。

共通する点は「学年が進むごとに、成績が向上している」という点です。特にDさんはコツコツ真面目に頑張っていた成果が2年の終わりで一気にでました。

MACでは中学1・2年生の間に英・数の学習を通して「勉強の仕方」を学んでもらっています。また、クラブで忙しく限られた時間の中でどうしたら効率よく勉強できるか、という「有効な時間の使い方」も自分自身で見つけて貰いたいのです。

塾が主導の「これだけ覚えときなさい！80点はとれるから！」という勉強をさせれば、確かに80点は取れるかもしれませんが、それは塾が取らせた80点、一つも本人の力にはなっていませんし、その塾を辞めたら80点は取れません。

子供達（大人もですが）は楽が大好きですので、「してもら^{らく}う」ことに慣れれば、自分でしようとしなくなります。だからこそ、「自分でする」という環境を作ることと、そうできるようにサポートするのがMACの指導なのです。

先日、MACの卒塾生が自学自習のみで国立大学に受かったと報告してくれました。

彼は小学1年生から中3まで9年間通ってくれた生徒です。中学時代は「中の上」という位の成績でしたが、コツコツ真面目に頑張るタイプでした。

そんな高校生に育ってもらえるよう、MACは中学生をサポートしていきます。